

地域活性化という「遊び」

40

京都市 福知山市 「みわ・ダツシュ村」から

山本晋也

「ちょっと香川まで行ってくるわ」
前日まで農場の仕事を
しっかり手伝って

夜のうちにサツと準備をして
早朝から出かけて行きました。

3人の自転車旅も
いよいよ板についてきて
福知山から香川くらいなら
もう近場という感じでしょ

今 回の目的は
香川県にいる友達を訪ねること



自転車旅。
出発するときも余裕が出てきました！

とと讃岐うどんの食べ歩き。

なぜ香川かというと

6月中旬にみわ・ダツシュ村で

音楽やカプトムシの展示など

イベントをすることになっており

そのイベントに香川から

友達が遊びに来るとい

「来るんだったらみんな

てお店出して商売の勉強

たら？」

と僕が提案したのがき

子供同士で

メールをやりとりする

「じゃあ讃岐うどんを

うことになったよう

「どうせやるならい

行って勉強してみるか

らしい理由をつけて

今あるもので

今までに無いものを作る

今は3人とも自転車

本当に楽しいよう

まあこじつけで

現地 3人が香川

今度香川から

その友達が福知山

一緒にうどんのリ

とやってきました

なんともフット

ちですね。

カフェのキッチン

リハーサルを繰

提供に時間がか

とで

讃岐うどんは一

うどんは麺が太

茹で時間がと

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかわらオーガニックレストランを運営するも食材を種から作ってみたいとなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダツシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人々が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダツシュ村副村長。

ある程度まで茹でてお

すが

手打ちを

本場で食べてきただけあ

「茹で置きは味が落ちる

ません。

「じゃあカレーか何か

ものにしたら？」

というところも嫌だとい

「じゃあ勝手にせい！」と

彼らに下駄を預けたら

なかなか面白いものを

考え出しました。

名前は「うー麺」。

うどんとラーメンを掛

合わせたような面白

スープは

和風だしを中華風に

細いので提供時間は

しかし今度は

北近畿の蒸し暑い梅雨



うどんを作っています。多加水なのでよく伸びます。



うどんの完成写真。ウーマンとかけています！



知り合いのラーメン屋さんに食べに行ったら
子どもたちはいろいろ質問して教えてもらっていました。



みんなで
綾部にある
讃岐うどんの
お店にも
行きました。

果たしてお客さんが喜ぶのか？と考
えだして
いろいろ調べたところ
山形に冷やしラーメンなるものがあ
ることを発見。
さすがに今から
山形まででは行けないので
近くに冷やしラーメンを出している
お店はないかと探して
大阪や神戸に数軒あったので
行こうとしたのですが
どこも冷やしは
7月くらいから始まるそうで断念。
悩んでいる子供たちに
「お前たち今まで散々料理を
していてお手本がないとできないの

か？」と
はっぱをかけてみると心機一転。
食べたことの無い山形の冷やしラー
メンの味を自分たちなりに想像して
小麦を配合して麺を打ち
その麺に合う冷たいスープを開発。
3日間の紆余曲折を経て
無事冷やしうー麺が完成。
しかし苦しんでいる様子はなく
あーだこーだと遊んでるうちに
うちの子たちが学んだ生パスタの技
術と
香川の子が子供のときから手作りし
てきた讃岐うどんの技術が
見事に融合した感じです。
「今あるもので、とりあえずやって
みる」
というのとは大事なことですが
今あるもので
すでにあるものが出来ても面白くも
なんともない
僕は思います。
「今あるもので今までに無いものを
作る」
そんなことは
大人からすると
奇跡のように思えますが
子どもたちにはどこ吹く風。
遊びながら
ひよいひよいやっちゃいますよ。
いやー
あっぱれあっぱれ。